

33. 芳しようの適地試験について

しょう脳試験場 国 生 哲 夫

緒 言

台湾産芳しようを内地に植栽した場合、幼令時霜雪害をうけるおそれがある為、芳しように対する霜除の可否試験を行い、第3回の本会で霜除の必要性は強く認めないと報告した。然しながら内地産くすの生育地に縋べて生育しうるかは疑問であつたため、昭和25年

より後記する各地に試験植栽して、芳しようの適地を検討したので、その結果について報告する。

植栽地の場所並にその立地状況調査方法

(1) 芳しよう植栽地並に立地状況は第1表の通りである。

第 1 表

植栽地番地	植栽地	海岸よりの距離	海拔高	傾 斜	地目 土地柄	日 射 温 熱	風 霜 雪	土 性	土壤の 状 態	肥沃 度	植栽 本数
A	千葉縣 安房郡天津町	km 3.5	m 120	南東向、南西北 が山に囲れ小盆 地的	山 林 山火事跡	日当り 良 好	強風は こない	砂質土壤		普通	30
B	熱海市上多賀	1.5	80	東 北 向 30°	山 林 杉伐跡地			腐蝕土	適 温 軟		30
C	伊勢市浦田町	7.0	30~40	共に山に囲れて いる小山の山腹 部	山 林	日当り 良 好	寒 風 は 受けない	壇壤土	適 温 軟	肥沃	30
D	和歌山縣 西牟婁郡江田	4.0	200	南 北 東 向 西 北 東 丘 陵	山 林 山下部谷間 山火事	日照長い といわ れない	寒風は塞 がれてい る	腐蝕土		肥沃	30
E	高知縣 安藝郡安藝町	2.0	25	西 北 向	山 林 傾 斜						30
F	福岡縣 朝倉郡志波村	45.0		平 坦	宅 地			砂壤土			30
G	佐賀縣伊万里	1.5		東 北 向	山 中 林 腹						22
H	水保市陣内	3.0		南 向 10°	山 林			壇壤土	適 温 軟	肥沃	30
I	鹿兒島縣 鹿兒島郡吉田村	10.0	200	南 向 10~20° 山 脚 部	山 林	17°C	台風道路 水降 2,100mm	壤 土	適 温 軟 P,H6		40
J	宮崎縣 北諸縣郡中郷村	都城盆地 43.0	400	南 向 20° 南 四 方 山 に 囲 る	山 林	16°C	風は強い 降水 2,400mm	砂 質 壤 土	表土乾燥		40

(2) 調査事項

- 活着本数
- 毎年の枯損状況
- 毎年1回(自12月至2月の間)樹高、根元径の測定(但し、昭和27年より3月に改正)
- 寒害の有無及びその程度

調査結果

1. 活着状況並に逐年枯損状況は第2表の通りである。

- 2. 成長量は第3表の通りである。
- 3. 寒害状況は第4表の通りである。

考 察

- 1. 苗木の活着状況は各地とも良好である。
- 2. 活着後の枯損は5ヶ所あるが、これらの原因は兎害、人為害、寒害、原因不明によるものである。
- 3. 成長量の算定は植時より現在まで枯損、折損、再萌芽、移植等の事故がなく生育した個体について行つた。この結果、福岡県朝倉郡の分は宅地であり、極

第 2 表

植栽地番号	植栽本数	活着率	枯 損 率					昭 29
		昭 25	昭 26	昭 27	昭 28	昭 29	生立本数	
A	本 30	% 97	% 0	% 0	% 0	% 0	% 0	29
B	30	90	人或は兎害 11 原因不明	0	0	0	兎 害 11	21
C	30	77	9	0	0	0	0	20
D	30	100	0	兎 害 3	0	0	強風に依る 4	28
E	20	95	0	0	0	0	0	19
F	30	90	0	0	0	0	0	27
G	22	95	0	0	原因不明 5	0	0	20
H	30	100	0	0	0	0	0	30
I	40	93	0	0	0	0	0	37
J	40	100	原因不明 3	原因不明 10	0	0	寒 害 32	22

(註) 表内記録は枯損原因

第 3 表

植栽地 番号	昭 25		昭 26		昭 27		昭 28		昭 29	
	樹高(H)	根元径(D)	H	D	H	D	H	D	H	D
A	cm 53	mm 9	cm 91	mm 47	cm 205	mm 53	cm 256	mm 18	cm 319	mm 96
B	50	6	75	13	23	28	193	54	262	77
C	48	7	81	10	115	13	152	21	210	29
D	42	7	76	13	126	27	168	40	212	51
E	29	4	66	6	93	10	121	16	142	22
F	48	8	168	28	236	59	333	83	453	109
G	38	20	92	21	122	36	174	53	230	21
H	49	14	78	20	111	28	136	39	155	41
I	37	7	74	14	125	26	166	44	239	59
J	27	7	67	13	103	23	134	32	182	41

第 4 表

植栽地 番号	昭 25	昭 26	昭 27	昭 28	昭 29
A	被害なし	葉全部被害	葉1部被害	同 左(1/4)	被害なし
B	被害なし	被害なし	被害なし	被害なし	被害なし
C	葉1部被害	被害なし	被害なし	被害なし	被害なし
D	1部全木被害	葉1部被害(1/2)	葉1部被害(1/2)	葉1部被害(1/3)	葉1部被害(1/10)
E	被害なし		葉1部被害(1/4)	被害なし	葉1部被害(1/2)
F	被害なし	葉大部分被害(5/6) 全木1部被害(1/6)	全木全部被害	全木全部被害	全木全部被害

植栽地 番号	昭 25	昭 26	昭 27	昭 28	昭 29
G	被害なし	葉1部被害(1/2)	芽のみ被害	芽のみ被害	葉1部被害(1/2) 全木1部被害(1/10)
H	被害なし	被害なし	被害なし	被害なし	全木大部分被害(3/5) 下部表皮一部龜裂(1/4)
I	葉大部分被害(3/5)	葉1部被害(1/2)	葉根と1部被害	葉極く1部被害	全木1部被害
J	全木大部分被害(3/5) 葉1部被害(2/5)	全木1部被害(1/5) 葉1部被害(3/5)	葉大部分被害(3/5)	全木1部被害(2/10) 葉1部被害(1/10)	全木大部分被害(3/5) 霜害枯死

(註) 本表の調査は褐色度、黒褐色度等の変色したものの結果である。

めて立地状況が良好であつたため、最良の成長を示した。

高知県安芸郡と熊本県水俣植栽分は風当たりが強いため樹高成長がやや悪かつた。

4. 寒害については宮崎県北諸県郡植栽の分が毎年被害を蒙り樹勢が衰え、29年度の極寒で全植栽木の32%を枯死に至らしめた。この地帯は四国山につつまれた山麓地で結霜が多く、空気が停滞する場所である。又福岡県朝倉郡植栽の分は全木褐色変する程の寒害をうけた。これは宮崎の場合とは状況を異にするが、共に海岸より相当離れている距離に存在する。又、熊本県水俣市の場合には29年度に初めて被害を記録している。これは前年度のかの霜害が表皮龜裂となつて現わ

れたものと判断される。

5. 以上綜合するに、芳しようは内地くすの生育地ならば略気象的害はなく生育する見込は充分あると考えられる。

結 び

以上で過去5ヶ年間の試験成績によつて各地域の芳しようの生育状況、寒害状況は明瞭になつた。即ち宮崎県の如き極端な地域を除けば殆んど適地と考えてさしつかえないと考えられる。

最後に本調査に協力下さつた日本専売公社各地方局係員の各位に深甚なる謝意を表します。

34. スギに寄生するハダニの駆除試験

鹿 児 島 林 試 川 畑 克 己

スギに寄生するハダニに対して駆除効果を検知するために、駆除試験を実施した。なお室内試験においては比較対象のためニトラン、E. P. N. を供試した。

1. 方 法

(イ) 室内における成蟬殺虫試験においては薬剤散布前日、本場苗圃のスギから捕獲した成蟬(種類は同定途上)を水挿した杉の穂に放飼したものに、9月2日下記区分処理により薬剤を散布した。な

お対照のため水散布区を設けた。液剤散布には二連成手押噴霧器によつてターンテーブルを用い150ポンドの圧力で20秒間1m距離の斜上下から散布した。4回反覆とし後所定時刻に死虫数(半死虫を含む)及び生存虫数を調査して第1表に纏めた。

(ロ) 室内における殺卵試験においては8月31日本場苗圃のスギから成蟬を多数捕獲し水挿した杉の穂に放飼し成体は9月3日の薬剤散布直前に除

薬 劑 名	有効成分比	製 造 所	製 造 月 日	処 理 区 分
ネオサツピラン 乳 劑	25 %	日 曹	30. 7. 15	1,000 倍 2,000 倍
〃 粉 劑	3 %	日 曹	30. 8. 6	
E P N	27 %	日 農		1,000 倍
ニ ト ラ ン	8 %	日 農	29. 2.	1,500 倍